

令和元年度 経営発達支援計画 事業評価報告書

令和2年8月19日（水） 10：00～11：15 美幌経済センター2階会議室

評価員 美幌商工会議所 副会頭 中村 仁郎 氏
美幌町経済部 部長 石澤 憲 氏
網走信金美幌支店 支店長 山本 大介 氏
事務局 横山専務理事 伊藤指導課長

1. 地域の経済動向調査に関すること（評価 B）
2. 経営状況の分析に関すること（評価 A）
3. 事業計画策定支援に関すること（評価 B）
4. 事業計画策定後の実施支援に関すること（評価 A）
5. 需要動向調査に関すること（評価 A）
6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること（評価 B）
7. 地域経済の活性化に資する取組（評価 A）
8. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること（評価 A）
9. 経営指導員等の資質向上等に関すること（評価 A）

<評価員からのご意見等>

- ・景気動向調査先の検討を行い、より地域経済の動向を把握できるように進めもらいたい
- ・一次産業の動向等の情報は、農業が主幹産業である本町にとっては大切である。
- ・経営分析は、計画に沿って事業が執行されている。
- ・事業計画策定支援は、目標に達成していないが、実際の効果は上がっている。
- ・事業計画策定後の実施支援として半年に1回程度、支援先から試算表の提出を求めていくと良い。また、策定後支援は件数以上に目に見えない苦労があると思います。そうした中でもよく取組んでいると評価します。
- ・新たな需要の開拓に寄与する事業として、多くの事業者が出展できるように推進してほしい。あわせて催事出展回数も充実させてほしい。
- ・コロナ禍のため、事業者もかってない経営状況になっている。事業者が特に必要としている事業に特化しても良いので事業者に寄り添った支援を実行してほしい。

総 評 価 表

項目	中 村 副会頭	石 澤 部 長	山 本 支店長	総評価
1. 地域の経済動向調査に関すること	B	A	B	B
2. 経営状況の分析に関すること	A	A	A	A
3. 事業計画策定支援に関すること	A	B	B	B
4. 事業計画策定後の実施支援に関すること	A	A	B	A
5. 需要動向調査に関すること	A	A	A	A
6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること	B	B	B	B
7. 地域経済の活性化に資する取組	A	A	A	A
8. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること	A	B	A	A
9. 経営指導員等の資質向上等に関すること	A	B	A	A

< 4段評価の目安 >

A : 十分達成している B : 概ね達成している C : 半分程度しか達成できていない
D : ほとんど達成できていない

令和元年度 経営発達支援計画 実績報告書

<美幌商工会議所 経営発達支援事業の目標>

地域における小規模事業者の総合的な経営支援機関として、各支援機関等と連携して支援ノウハウの共有を図り、経営計画策定への支援及び実行に対して伴走型の支援を実施し、ビジネスモデルを構築しながら小規模事業者の持続的発展に向けた支援を実行します。

また、地域経済の活性化と雇用の創出を図るために、創業や第二創業、新分野進出者に対して、総合支援窓口としての機能を果たし、地域の企業創出及び、事業承継に対する解決を図り小規模事業者の持続的発展に寄与し、地域経済の底上げを目標とします。

1. 地域の経済動向調査に関すること【指針③】

日本商工会議所及び日本政策金融公庫等が行う経済動向調査や当所の景気動向調査結果は役員議員や地元新聞に掲載して周知するのみとなっており巡回指導時や小規模事業者の事業計画策定など持続的な発展を目指すべく情報として十分に活かしきれていない現状です。

これからは、小規模事業者の持続的発展を目指していく上での情報として、当所が実施している景気動向調査の回収率を高め、業種別の景況感、動向や見通しを把握し、窓口・巡回指導により小規模事業者の経営計画作成の支援及び経営支援に資する商工会議所各事業に反映させていきます。

- (1) 会員事業者に対する独自調査の実施
- (2) 地域経済指標の分析

支援内容	元年度目標	元年度実績	30年度実績	29年度実績
①景気動向調査 回収率向上	60%	35%	37%	30%
②景気動向調査 聞き取り調査	40件	61件	58件	51件
③計画実行フォローアップ	8件	16件	18件	18件
④一次産業動向等の情報交換会	1回	1回	1回	1回

(補足事項) ④R1.6.18 オホーツク商工会議所経営指導員連絡協議会にて(株)日本政策金融公庫
北見支店農林水産事業部と一次産業動向等の情報交換を実施

2. 経営状況の分析に関すること【指針①】

これまで経営状況の分析は、小規模事業者経営改善資金（マル経資金）の推薦時や小規模事業者持続化補助金申請時に経営改善を目的として実施するに留まっておりましたが、小規模事業者が持続的に発展していくために、個別に経営課題の抽出やSWOT分析をして、その内容を事業計画策定・実行に活用していくことが重要であります。

本計画では、各種経営セミナー等の開催や経営指導員等による巡回指導等を通して経営状況の

分析をする小規模事業者を掘り起し、経営状況の分析をしていきます。その成果を事業計画策定に活用して小規模事業者の持続的発展に向けた伴走型支援を実施していきます。

- (1) 経営分析する小規模事業者の掘り起し
- (2) 経営指導員等や専門家と連携した経営分析の実施

支援内容	元年度目標	元年度実績	30年度実績	29年度実績
①巡回訪問件数	170件	169件	178件	176件
②各種経営セミナー等開催回数	2回	5回	7回	9回
③各種経営セミナー等参加人数	15人	46人	55人	85人
④経営分析数	15件	23件	28件	37件

(補足事項) ②③内訳：各種経営セミナー5回開催・参加人数46名

※08月28日「生産性向上実務ミナー（クラウド会計・POSレジ・キャッシュレス）」（9名）

※10月21日「財務分析セミナー（社員にも伝わる売上目標の作り方）」（6名）

※11月28日「経営分析セミナー（自社の強みを活かして商売繁盛セミナー）」（9名）

※02月21日「事業計画作成セミナー」（10名）

02月13日「BCP策定セミナー」（12名）

④内訳：事業計画策定支援6社、個別相談会3社、専門家活用2社、セミナー出席8社
計画実行フォローアップ2社、マル経融資申込2社

3. 事業計画策定支援に関すること【指針②】

経営指導員等が行う経営基盤の拡充や経営革新に資する各種制度の利用と小規模持続化補助金に対して窓口において相談に来た小規模事業者への事業計画策定支援に止まっていました。

今後は、地域経済の動向、経営状況の分析を踏まえた事業計画策定に関するセミナー等を開催し、事業計画策定を目指す小規模事業者の掘り起しを行います。

あわせて、一日公庫相談や専門家派遣による個別相談会の開催や巡回指導による事業計画策定に向けたフォローアップを図っていきます。

- (1) 事業計画策定支援に関するセミナーの開催
- (2) 事業計画作成策定に関する相談と資金調達支援の実施
- (3) 各種補助金の活用による事業計画策定支援
- (4) 創業等における事業計画策定支援と専門家派遣による支援体制

支援内容	元年度目標	元年度実績	30年度実績	29年度実績
①一日公庫相談会	3回	0回	0回	1回
②セミナー・相談会開催回数	6回	10回	19回	16回
③事業計画策定事業者数	10件	5件	8件	9件

(補足事項) ②内訳：セミナー5回、個別相談会5回開催（以下、個別相談会開催内訳）

※09月05日「IT活用販路開拓個別相談会」（6社）

※09月13日「顧客管理塾（基礎から学ぶ顧客管理の進め方）」（4社）

※11月18日「自社商品・サービスのブランド化個別相談会」（5社）

※02月21日「ビジネスマッチング交流会」（9社）

10月30日「事業承継個別相談会」（6社）

(成果報告) 上記のセミナーを通して事業の持続的発展に向けた事業計画策定を進める小規模事業者10社の目標に対して計画策定5社となった。ただし、計画策定予定3社、再計画作成予定3社をあわせると11社となり事業計画策定につなげることができました。

(成果事項) 事業計画実行フォローアップ及び事業計画策定を進める小規模事業者に対して、巡回訪問・窓口相談から上記の個別相談会へ誘導し、述べ23社に対して専門家による個別支援を実施することができた。そのうち前年比または支援前に比べて売上が5%増となる小規模事業者が8社となり、目標5社に対して大きく効果を上げることができた。

4. 事業計画策定後の実施支援に関すること【指針②】

事業計画策定後の実行支援に関する巡回指導等がほぼ行われていない体制を改め、事業計画策定後、2カ月に一度程度の巡回訪問を実施し、進捗状況の確認や必要な指導・助言などをしてフォローアップをしていきます。また専門的な分野については、新たに北海道よろず支援拠点や中小機構北海道本部と連携して専門家を招聘し、事業計画実行に向けた課題を明確にし、事業計画が実行されるバックアップ体制を構築していきます。

- (1) 事業計画実施に伴う巡回指導及び各支援機関による専門家活用
- (2) 事業計画実施に伴う施策・支援等の周知
- (3) 情報交換会の開催

支援内容	元年度目標	元年度実績	30年度実績	29年度実績
①フォローアップ件数	108件	108件	133件	75件
②ビジネスモデル構築事業者数	2件	2件	3件	—

(補足事項) ②昨年度、ビジネスモデル構築とした事業所2社は、今年度も売上10.8%増、12.2%増となっている。その内、自動車整備会社は2020年5月に事業承継を行うことができた。新規にビジネスモデル構築した事業者は、いずれも事業計画策定支援による補助事業採択にて機械設備導入を行い、その結果、生産性向上が図られ1社目の飲食業者は11.4%売上増となった。2社目の自動車板金塗装業者においては、売上14%増、営業利益74%増加となり大きく財務状況を改善することができた。

5. 需要動向調査に関すること【指針③】

需要動向を把握するために契約している日経テレコム調査システム等を活用し、小規模事業者の事業計画に沿った需要動向を把握し、事業計画策定への情報として提供する。また、(株)日本経済研究所や北海道よろず支援拠点と連携し、想定する市場の需要動向の情報提供と共に需要

動向にあった商品開発及び販路開拓をするためのブラッシュアップ支援を実施していきます。

- (1) 最新の消費・トレンド動向等の把握による情報提供
- (2) 需要動向を踏まえた専門家によるブラッシュアップ支援

支援内容	元年度目標	元年度実績	30年度実績	29年度実績
①需要動向調査数	10件	20件	17件	18件
②専門家需要動向支援数	3社	6社	2社	1社

(補足事項) ①内訳：個別相談5社、事業計画策定6社、創業計画策定3社、マル経融資斡旋3社
販路開拓支援3社

②内訳：ミラサボ専門家派遣(2社)、ブランド化個別相談会(4社)

6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること【指針④】

当地域における一次産品を活用した新商品開発や全国展開に向けた販路拡大においては、日本商工会議所地域力活用新事業∞全国展開プロジェクトを活用し当所が支援・実施して首都圏等へ販路を拡大したビジネスモデルを構築しました。

小規模事業者の販路開拓においては、そのノウハウを最大限に活かし、商談シートの作成や催事における商談のポイントなど、きめ細かい指導・助言を実施します。また、催事に出席の際には、経営指導員等も可能な限り随行し、販路開拓支援を実施します。

- (1) 新商品等の開発及びブラッシュアップ支援の実施
- (2) 商談会・催事等への出店支援と商談シート作成支援
- (3) 情報発信強化とプレス発表会の開催

支援内容	元年度目標	元年度実績	30年度実績	29年度実績
①専門家招聘回数	3回	6回	2回	1回
②展示会・商談会参加回数	3回	3回	3回	1回
③展示会等出展者支援者数	7社	3社	3社	2社

(補足事項) ①中小企業診断士 黒野秀樹氏(6月4日、8月27日)

商品開発コンサルタント 加藤邦彦氏(5月6日、6月19日、9月12日)

バイヤーズ・ガイド 発行編集人 永瀬正彦氏(11月18日)

②日本百貨店にほんばし総本店における展示販売会(1月24日～2月2日)

第27回グルメ&ダイニングスタイルショー春2020出展(2月5日～7日 東京ビックサイト)

(株)札幌丸井三越「きたキッチンオーロラタウン店」販売促進会(2月8日・9日 札幌)

③円館工芸舎(日の出1)、株式会社マルワ製麺(大通南5)、有限会社三雄産業(青山北)

7. 地域経済の活性化に資する取組

当地域は、人口減少に伴う小規模事業者数の減少や、隣接している中核都市への消費者流出といった問題に対して、平成21年度より日本商工会議所地域力活用新事業∞全国展開プロジェ

クト等を活用し、全国展開する商品開発等を行ってきたものの、上記、諸問題に対応する有効な手段とまで至っていない現状です。

今後は、小規模事業者の持続的発展を促進する、域外からの資金流入による域内経済の活性化につながる事業を、関係機関と連携を密にして当商工会議所が中心となって取組んでいきます。

1) 美幌町観光まちづくり協議会による通過型観光客をターゲットにした滞在型観光開発

①Reborn Trip Project (地域資源活用)

(1) 農産品の高付加価値化

○BIHORO BASE 開催時実績

第1回	6月2日	13店舗	売上 285,888円	来場者 250名
第2回	7月7日	11店舗	売上 108,520円	〃 50名
第3回	8月24日 25日	8店舗	売上 154,830円	〃 200名
第4回	9月1日	9店舗	売上 119,850円	〃 150名
第5回	10月6日	19店舗	売上 383,077円	〃 350名

(2) ヘルスツーリズム開発

○女満別空港ヒアリング調査 (女満別空港ビル出発ロビー2F)

期間：9月21日(土)・22日(日) 221サンプル(内、外国人9サンプル)

○ランドオペレーション機能構築に向けたサイト運用

○旅行会社等への企画ツアー営業活動の実施

5月20日 北海道オプションルーツ株式会社、株式会社シービーツアーズ

○有名インストラクター招聘による集客力向上 (YOGACAMP BIHORO 2019)

日時：8月24日(土) 13:30~20:30、25日(日) 7:00~17:00

会場：美幌町民会館・美幌峠・美幌みどりの村

招聘：インストラクター12名招聘(18プログラム) 参加：820名(延数)

売上：1,429,910円(チケット売上)

(3) グリーンツーリズム開発

○観光商談マッチングフェア出展による広報

日時：12月11日(水) 10:00~17:00、12日(木) 9:30~16:00

会場：新宿NSイベントホール 中ホール

主催：全国商工会連合会、日本商工会議所

参加：80社 約100名(エージェンツ・メディアのみ) ※商談：14社

○教育旅行マーケットに関わる調査

期間：5月15日~12月31日

内容：(1)教育旅行マーケットニーズ調査、(2)農業体験受入時の実施調査

○星空観測会(※みどりの村実施予定の観測会は定員が満たないため中止)

①8月3日(土) 紋別ガリンコ号ナイトクルーズ(参加者9名)

②8月7日(水) ワタミ自然学校星空体験(参加者48名)

○農業体験実施者推進に向けた勉強会等の開催

・説明会開催(6月25日8戸、8月9日10戸、8月16日15戸、9月19日6戸、

1月24日17戸)

- ・個別訪問による事業説明 (26戸)
- ・先進地視察による研修会 (6月10日北海道東川町、6月11日長沼町)
- ・教育旅行農業体験受入 (大阪清風南海高校7月29日29名、30日23名)
- アロマ精油づくり体験プログラム開発 (6月18日(火)9:30~13:30)
- 農泊多分野連携推進事業マッチング会の参加 (12月2日(月)13:30~17:30札幌市)

(4) 協議会等開催

- 総会 (6月3日) 平成30年度事業報告・収支決算・2019年度事業計画・事業収支予算
- 幹事会 (4月23日、5月29日、10月25日、12月3日、2月20日、3月24日)
- プロジェクト会議 BIHORO BASE (16回)、YOGACAMP BIHORO (15回)、星空プロジェクト (13回)、林業体験プロジェクト (2回)

②Machigayado Project (農泊推進対策)

(1) コンテンツ整備・開発

- 勉強会・講習会・研修会の実施
 - ・民泊推進セミナー「地方の生活・暮らしをアップデート」(12月17日)参加者33名
 - ・農村ツーリズム研修会(1月28日)参加者48名(農家11戸)
- 個人旅行・教育旅行向けコンテンツの開発、磨き上げ
 - ・教育旅行先進地視察研修の実施(7月12日 弟子屈町 渡辺体験牧場)参加者9名
 - ・農泊地域事業者のための農泊経営セミナー出席(9月3日札幌)
 - ・料理体験メニュー磨き上げ研修(9月8日参加者4名)
 - ・教育旅行農泊実施研修(10月2日・3日1泊2日)
大阪教育大付属高校生徒27名 受入研修農家6戸
 - ・農家民泊事業先進地研修(10月7日大田原グリーンツーリズム、8日受入農家視察、
宍那須野ヶ原ファーム、10月9日(一社)秩父地域おもてなし観光公社)
 - ・体験コンテンツ開発ストーリーテリングキャンプの開催(2月1日・2日1泊2日)
 - ・北海道グリーンツーリズムネットワーク地域づくりフォーラム(2月26日札幌市)

(2) 体制構築・強化

- シェアリングサービスの提供
 - ・コミュニティタクシー実証実験の実施(8/21~2/29)利用者33名
(運行:8月3台、9月3台、10月4台、11月1台、12月2台、1月1台、2月2台)
 - ・電動キックボード乗車利用実証実験(11月23日)
 - ・シェアリングサービス調査(カートラベルジャパ2019幕張メッセ9月20日-22日)
 - ・民泊推進のための個別相談(4件)・物件現地調査(3か所)(2月14日・15日)
- 運営体制整備
 - ・美幌版DMO設立に向けた検討MTG(11月8日、12月18日、1月23日、2月20日)
- Webマーケティング
 - ・9月18日 WEB撮影協力依頼案内(133件)、10月1日~4日46か所撮影、10月14日~

16日38ヵ所撮影、3月30日WEBサイト運用

(3) プロモーション

- ・SNSターゲティング広告（農泊推進Facebook広告）
- ・教育旅行向けパンフレット製作

(4) 人材活用事業

- ・事業推進プロデューサー候補1名雇用（R1年7月12日～R2年3月31日）
- ・専門家活用によるOJT型の研修の実施

2) 商店街にぎわいソフト事業の展開

○得する街のゼミナールの開催

日 時：10月15日（火）～11月30日（水）

参加企業：23事業所（うち小規模事業者18社）

開 講 数：26講座54回開催（参加者165名）

8. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること

他の支援機関との支援ノウハウ等の情報交換に関する課題は、これまで経営改善普及事業等で関係事案が生じた際に、経営指導員が連携先を選択し、連携を図る状況下のため、小規模事業者の課題解決策に関する支援ノウハウ等の情報交換は行われていませんでした。

今後は、次により経営発達支援事業の円滑な実施に向けた支援力向上のため、他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換を図ります。

支援内容	元年度目標	元年度実績	30年度実績	29年度実績
①(株)日本政策金融公庫北見支店国民生活事業との情報交換会等	1回	3回	2回	3回
②中小機構北海道本部との情報交換	—	2回	3回	2回
③北海道経済産業局知財総合支援窓口との情報交換	—	—	1回	—
④6次産業化などの成功事例やビジネスモデルなどの情報交換	—	1回	1回	1回

(補足事項) ①小規模事業者経営改善資金貸付推薦団体連絡協議会・勉強会（3回）

②中小機構北海道本部の専門家による事業承継個別相談会（1回）、専門家派遣（1回）

④(株)日本政策金融公庫北見支店農林水産事業部との情報交換（1回）

※その他支援機関との情報交換

北海道信用保証協会北見支店意見交換（1回）、北海道中小企業総合支援センター（1回）

北海道よろず支援拠点オホーツク支部（3回）、オホーツク地域中小企業支援ネットワーク会議等（2回）

9. 経営指導員等の資質向上等に関すること

経営指導員等の資質向上については、北海道商工会議所連合会の定める研修体系要綱による中小企業大学校における研修を年1回受講していますが、個々の情報収集の域に止まり研修内容の共有も行われず、地域経済の活性化や小規模事業者への支援に繋がっていません。また、記帳、税務、労働に関する指導スキルはあるものの、事業計画策定支援や販路開拓など小規模事業者が抱える課題に対して、支援できるスキルの習得と支援体制の整備が急務となっています。

今後は、以下により小規模事業者の持続的発展に資する支援を一貫して実行するため、上記支援に必要な研修の受講とOJTによる支援ノウハウの共有を図り、意識改革も含め支援体制の整備をしていきます。

支援内容	元年度目標	元年度実績	30年度実績	29年度実績
①研修会等の参加による資質向上	3回	5回	4回	6回
②職員間の支援ノウハウの共有化による資質向上と意識改革	12回	3回	4回	0回
③専門家や研修会・セミナーへの同席等による資質向上	—	10回	17回	11回

(補足事項) ① 深田 裕二「BCP・リスク対応支援の進め方」(6/23～26)

伊藤 健一「法定経営指導員に係る講習会」(9/23～25)

「経営支援分析力向上研修会」(10/10・11)

「地方創生・観光振興の進め方」(11/4～7)

「消費税軽減税率対策窓口相談 経営指導員向けブロック別研修会」(11/12・13)

② オホーツク商工会議所経営指導員連絡協議会にて6商工会議所の経営指導員等における支援ノウハウの共有化の実施(6/18、10/25、1/29)

令和元年度 経営発達支援計画 事業評価表

(日時：令和元年8月19日 10:00～)

評価員名 _____

項 目	事業評価
1. 地域の経済動向調査に関すること	
2. 経営状況の分析に関すること	
3. 事業計画策定支援に関すること	
4. 事業計画策定後の実施支援に関すること	
5. 需要動向調査に関すること	
6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること	
7. 地域経済の活性化に資する取組	
8. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること	
9. 経営指導員等の資質向上等に関すること	

< 4段評価の目安 >

A：十分達成している B：概ね達成している C：半分程度しか達成できていない
D：ほとんど達成できていない